

# 「もみじ園」の紅葉と黄葉 (三島郡越路町)

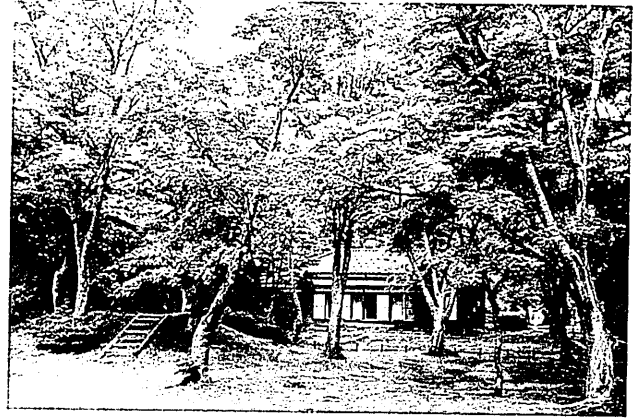
渡 辺 茂

もみじ園は、明治29年頃、越路町大字神谷の地主、高橋家の別荘の庭園としてつくられたものである。明治40年5月、民俗学者の柳田國男が越後を訪ねているが、「名を知られたる土地の長老高橋九郎翁（来迎寺駅に）迎えに来られる」、5月22日の夜には「西九旅館は満員、やむなく高橋氏の別邸（別荘）にとまる。夜おそくまでビールを飲みて話す。」と、北國紀行に記されており、高橋氏が文化交流の場としても別荘を使用していたことがうかがえる。

別荘の敷地には、オオモミジが多数植栽されている。このオオモミジは、高橋家が事業の活動の場でもあった京都から、すぐれた品種を移植したものと伝えられる。平成元年、越路町がこの別荘の寄贈を受け、「もみじ園」として管理している。

「もみじ園」は呼称のとおり、周囲の里山では見ることのできない、オオモミジの紅葉の群落美が特色としてあげられる。近年、紅葉の季節には、観光地のひとつとして注目され、見ごろとの報道を聞いて隣接県からも観光に訪れる方々も増え、しだいに有名になってきている。

また、この敷地と南側の道路との境に、ヤマモミジが垣根状に植栽されている。ヤマモミジの黄色の黄葉とオオモミジの紅葉とのコントラストも美しい。このヤマモミジの



「もみじ園」：越路町大字朝日 2001.9.1

垣根の内側に、ソメイヨシノも植栽されており、春の別荘の景観も格別である。

敷地の北西部は斜面となっている。この斜面につづらおり状態の昔ながらの小道が通っている。現在も、もみじ園駐車場からの通路として使用されているが、この道わきの雑木林では、四季をとおして、中越地方を代表する里山の植物が観察できる。もみじ園を訪ねる時は、この斜面の野草たちの姿も味わっていただきたい。

11月には、夜間ライトアップも実施されている。

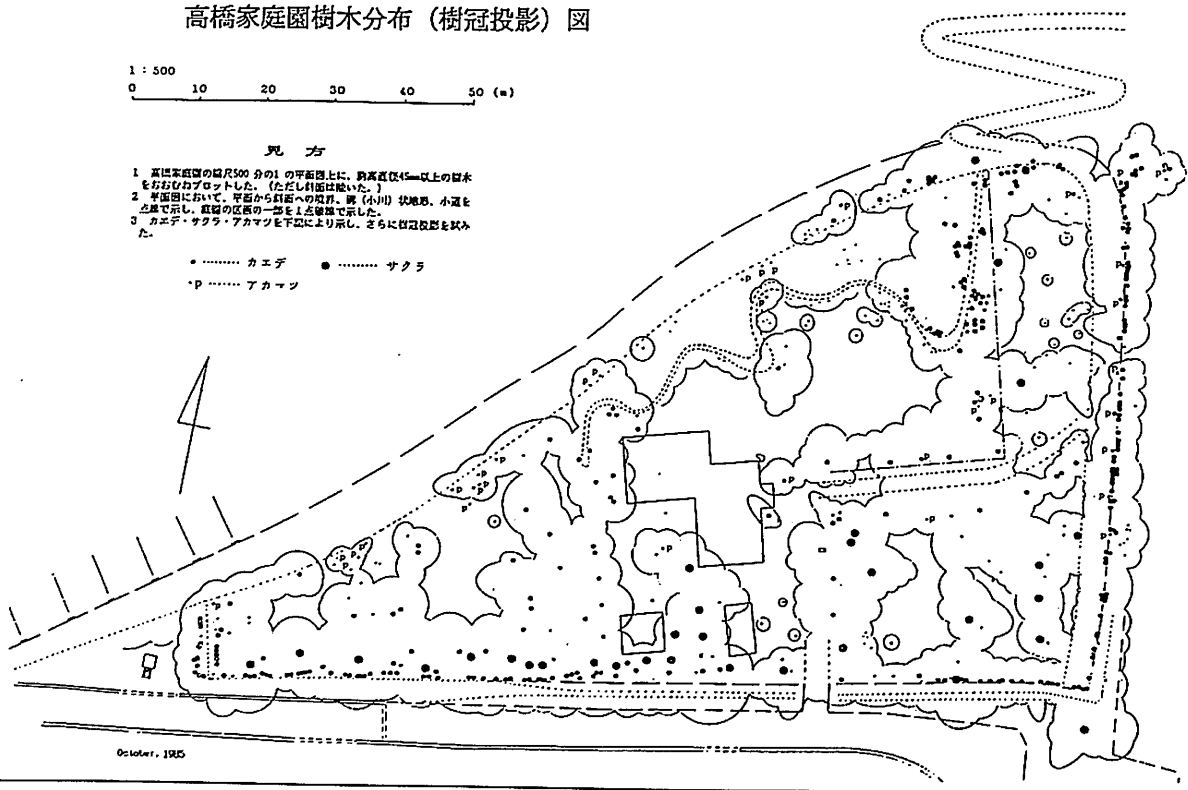
高橋家庭園樹木分布（樹冠投影）図

1 : 500  
0 10 20 30 40 50 (m)

見方

1. 高橋家庭園の図尺500分の1の平面図上に、負高直径4cm以上の樹木を右記なプロットした。（ただし斜面は除いた。）
2. 平面図において、斜面から斜面への取手、溝（小川）状地形、小道を点線で示し、庭園の区画の一部を上点線線で示した。
3. カエデ・サクラ・アカマツを下記により示し、さらに樹冠投影を以てした。

● ..... カエデ    ● ..... サクラ  
● ..... アカマツ



October, 1985